

同窓会設立に寄せて

重川 一郎 (京都大学・教授)

2015年5月18日

この度、京都大学理学研究科・理学部数学教室の同窓会が発足する運びとなりました。この間設立の準備の末端に係わった一人として、個人的な範囲で経緯を記させていただきます。

数学教室に同窓会が必要だろうという思いは以前からあったことと思います。実際、数学教室のまとまった形での卒業生名簿が1997年1月、1998年12月、2002年10月の三回発行されております。これらの名簿の作成には多くの方の協力があったことと思いますが、特に故丸山正樹氏はその中心となって奔走されたと聞いています。そして出来ることならこれを基礎資料として同窓会設立への足がかりとしようとの思いもあったのではないのでしょうか。そうした意味では、教職員の間で同窓会を作りたいという思いはずっと存在し続けていたと言うことが出来ると思います。

名簿の作成は2002年を最後に、以後は行われておりませんでした。卒業生のデータは、電子的なデータベースの形で引き続き更新が続けられていました。2014年の春に、このままでは昔のことを知っている人間がいなくなり、これらの作業も途切れてしまうのではないかと、今が同窓会を作る最後のチャンスになるのではないかと事務員の中からも声があがりました。そして数学教室の決定機関である教授会合にも諮られ、教授会合の支持の下、同窓会の設立に向けての準備が始まりました。重川は、数学教室との連絡役という位置づけて事務員の方の協力も受け、同窓会設立の準備を始めましたが、やはり中心になる人が必要であろうと言うので、西田吾郎さん、井川満さんにも相談しました。特に、西田吾郎さんは自分が中心になる以外にないと思われたようですが、病状が思わしくなく、思いもかけず2014年の6月2日に亡くなられたのは本当に大きな痛手でした。その間の経緯は、井川満さん自身が文章を寄せておられますので、それを読まれるとよく分かります。亡くなられた西田さんの遺志をついで、その後は井川満さんを中心に同窓会の設立準備が始まりました。井川さんには準備会の代表になっていただき、牽引役になっていただきました。名実ともに井川さんが同窓会設立の中心人物であり、準備会全員の精神的な支

柱でした。井川さんなくして、この同窓会の設立はおぼつかなかつたに違いありません。

またこの間、困難の一つとなったのが、卒業生との連絡をどう取るかということでした。その点では、以前にまとめられていた名簿、特に 2002 年の名簿が貴重な存在でした。もちろんデータが古くなって使えないものも多くありましたが、やはりこれが一番の基礎資料で、卒業生の一覧データとしては最も完備したものでした。これがなければ、同窓生への連絡はほとんど不可能でした。学年幹事を選んで同窓生への連絡の核になっていただきましたが、この名簿がなければ同級生の名簿を作ることもできませんでした。それを元に、学年幹事の方にも同窓生の連絡に奔走していただき、おかげで随分連絡の輪が広がりました。幹事の方にも感謝の念が絶えません。電子メールも利用しましたが、何百と言うメールが不達で返って来ました。それでも郵便、電子メールでおおよそ 900 人の方に連絡が取れたことになります。もちろんこれはまだ十分な数ではありませんので、今後も連絡の輪を広げていくことは継続する必要があると思います。

もう一点心強かったのは、京都大学の同窓会組織である京都大学同窓会の協力を得られたことです。京都大学同窓会は京大アラムナイという、インターネットによる登録システムを持っています。名簿は個人データであり、最近は特に取り扱いに細心の注意が必要とされます。それを京大アラムナイの登録システムを利用することで負担が大きく軽減されました。今回の設立総会案内の発送の多くは、京大アラムナイの登録データを利用させていただきました。京大アラムナイのデータの利用を快諾していただいた京都大学同窓会の関係者の皆様にも感謝したいと思います。

同窓会の設立に関しては何とかここまで漕ぎ着けましたが、それまでには実にさまざまな人の思いがあり、努力があつてのことだと感じさせられました。同窓会は設立したばかりで、これからの道も決して平坦なものではないでしょうが、この同窓会の発展を切に願ってやみません。